

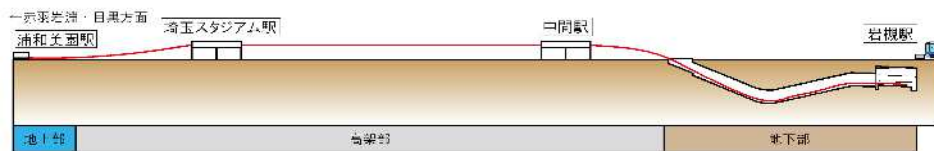
地下鉄7号線中間まちづくり方針改定版の報告

地下鉄7号線延伸計画の概要

▶延伸ルート平面図

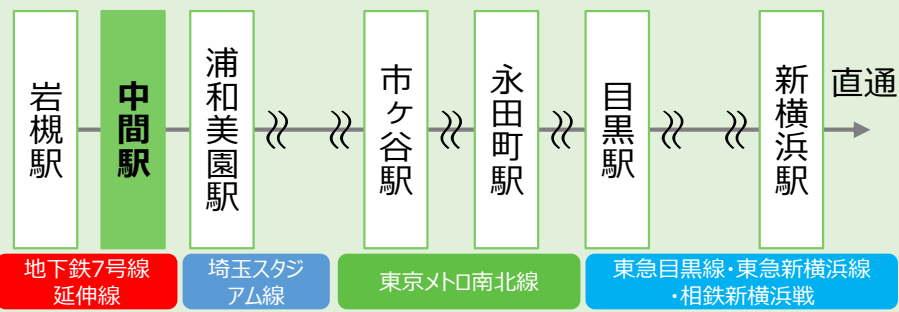


▶延伸ルート縦断面図



※駅名、ルート、構造は正式に決定したものではありません。

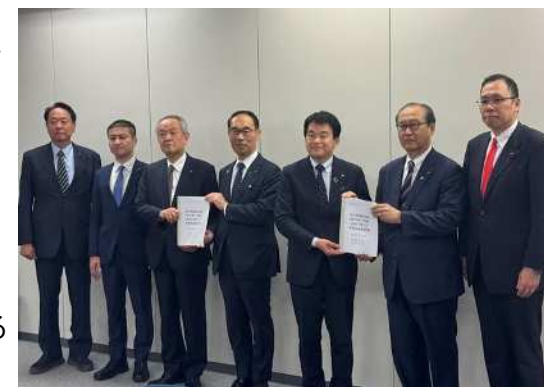
▶延伸後の鉄道ネットワークイメージ



▶埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）延伸に関する事業実施要請（令和8年3月31日）

埼玉県とさいたま市は、令和8年3月31日に、都市鉄道等利便増進法（平成17年法律第41号）第11条第1項の規定に基づき、鉄道事業者に対して、埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）延伸に関する速達性向上事業の実施を要請。

併せて、速達性向上事業に関する計画の素案を鉄道事業者へ提示。



（向かって左から）小島埼玉県議、荒木埼玉県議長、藤田鉄道・運輸機構理事長、大野埼玉県知事、清水さいたま市長、平野埼玉高速鉄道社長、伊藤さいたま市長

要請者 埼玉県、さいたま市

要請先 営業主：埼玉高速鉄道株式会社

整備主体：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

地下鉄7号線中間まちづくり方針改定版の報告

中間駅周辺地区の現状

▶ 基本データ

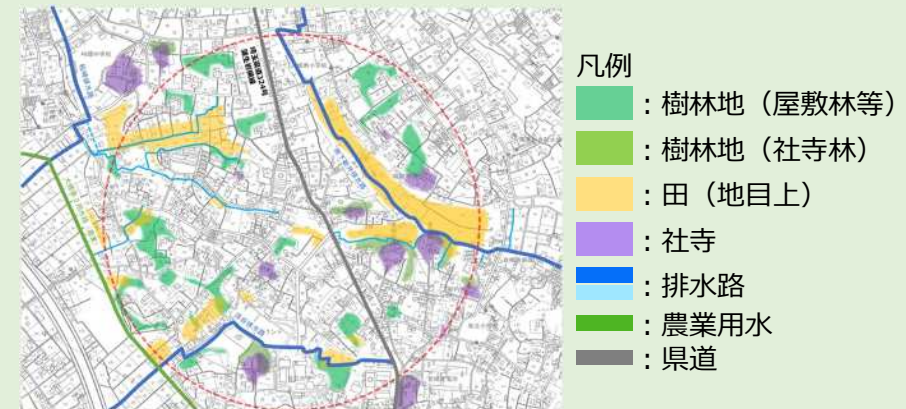
対象面積 約120ha

目標定住人口 約10,000人

現況土地利用 畑や山林等の**自然的土地利用が半数**を占めており、**屋敷林や社寺林**といった樹林地が点在。

地形・地盤 東西の河川エリアに挟まれた**比較的なだらかな台地**。地盤は主に**ローム層**で構成されており、**保水性や透水性の良い黒ボク土**じょうが大半を占めている。

◀ 現況の土地利用図 ▶



▶ 地域の歴史

● 「浮谷（うきや）」の地名由来：

かつて存在した湧き水が、水が地面から湧き出て浮き立つように見えたことから → 「浮き立つ谷」の意。

● 武州鉄道の面影：

大正～昭和初期にかけて運行。廃線後の線路跡は現在の目白大学岩槻キャンパスに繋がる道となっている。

● 歴史的な寺社・屋敷林が点在



▶ 現況土地利用の割合（令和2年度）

農地	山林等	住宅地	工業等	その他
35%	15%	25%	10%	15%

■ 農地 ■ 山林等 ■ 住宅地 ■ 工業等 ■ その他



● 自然的利用（農地＋山林）が約半数を占めている。

- 現況：市街化調整区域に位置しており、農地や山林等の自然的利用が約半数以上を占めており、武州鉄道跡や寺社・屋敷林等の歴史的面影も残っています。
- 今後：元々ある緑豊かな自然環境などの地域資源・魅力を活かしながら、新たなまちづくりを進めていきます。

まちづくりのコンセプト

～みどりと未来にこそろ浮き立つ、人を育てる100年続くまちづくり～



01

高架下空間の有効活用

鉄道開業後の高架下空間を、商業やコミュニティ活動の場として活用し、駅東西の回遊性を高めるとともに、地域に賑わいを創出します。



02

周辺交通を支えるモビリティステーション

駅周辺にシェアサイクルや小型モビリティの拠点を整備し、公共交通と連携したスムーズな移動を実現します。将来の新たなモビリティにも対応できる柔軟な空間を確保します。



03

地域に開かれた教育施設

目白大学をはじめとする教育資源を活かし、学びや交流の場を地域に開放し、地域コミュニティの形成を促進します。



04

既存のみどりを活かした緑道

屋敷林や社寺林など既存のみどりを骨格に、駅から大学へ続く緑豊かな歩行者ネットワークを整備し、ウォーカブルで心地よい空間を創出します。



05

調整池等を活用した親水空間

調整池等を公園や自然環境と一体で活用し、平常時は公園や憩いの場として利用可能な親水空間を整備することにより、水循環に配慮した持続可能なまちづくりを推進します。



06

自然環境に配慮したゆとりある住環境

既存のみどりを活かし、景観に配慮した住宅地を形成します。また、高断熱・ZEH化など環境性能を高め、省エネと快適性を両立したゆとりある住環境を提供します。



- 対象地域が、かつて湧き水が存在していたことから「浮き立つ土地」を意味する「浮谷」と呼ばれてきた歴史を踏まえ、コンセプトに反映しています。
- **豊かなみどりの保全と先端技術を活用した未来感あふれ、人々がワクワクするような魅力ある空間の創出**によって、**ここで生まれ育つ人の営みが100年続くような循環を生み出す**ことを目標として、「人を育てる、100年続くまちづくり」をコンセプトとして掲げました。

ゾーニングと土地利用のイメージ

- 駅まで徒歩10分程度（半径約800m）圏内を基本として、**ウォーカブルでみどり豊かな環境**として整備し、対象エリア内に都市機能が集約するよう各種機能を誘導、周辺の住宅エリアでは、地区外の農業エリアとの連携による**里山的風景が広がる環境**を創出し、**新たな田園都市的まちづくりを形成**します。
- 新たな田園都市の形成に向けて、土地利用ごとのみどりの活用方針も設定しました。みどりを「つくる」「守る」だけでなく、「**育てる」「活かす**」という意識の醸成を図っていきます。

土地利用ごとのみどりの活用方針

商

駅前周辺では、既存林の一部残存、新たにベンチや芝生等の滞留機能、防災機能等を設けることで、地域の文化・歴史の継承と周辺商業施設や駅利用者の利用促進を図る

学

既存の目白大学への緑道は維持し、既存のみどりを活かした賑わいあるオープンスペースを創出する

住

緑地と近接する住宅地においては、制度の活用により緑地の一部を保全するほか、暮らしの中に“みどり”を実感できるようゆとりある住宅とする

集

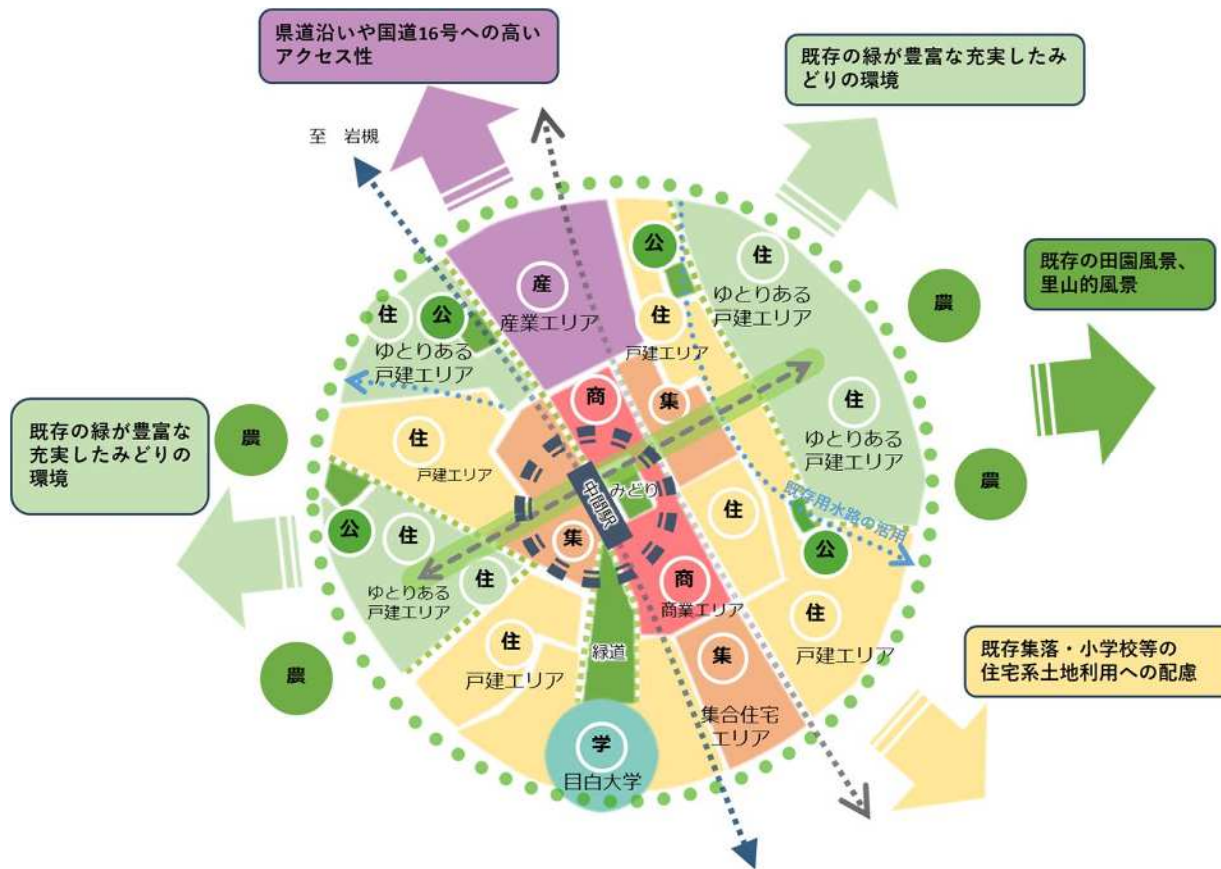
集合住宅地においては、既存の樹木等の保全・移植、事業者や住民等の維持・管理による“みどり”の確保を図る

産

産業エリアにおいては、民間事業者と連携し、既存の高木等を有効活用し、住宅エリアとの緩衝帯としてみどりを有効活用する

公

公園や緑地については、既存の樹林地を活かした配置とするとともに、調整池の整備にあたっては、公園と隣接させ、生物多様性に配慮した緑豊かな空間を目指す



地下鉄7号線中間まちづくり方針改定版の報告

地下鉄7号線中間駅まちづくり推進会議の構成

- ・ 令和7年度に開催した「地下鉄7号線中間駅まちづくり方針有識者会議」の有識者を基本に**新たな視点を加えた体制**として構成。
- ・ 人口減少時代のなかで選ばれるまち、100年続く持続的なまちづくりを推進するため、**都市景観／都市デザイン分野の有識者を新たに加え、まちづくりの検討を加速**させる。
- ・ 「駅前広場」「みどり」等、**各ワーキンググループごとに有識者と関係者、市の関係部署で検討し、まちづくり推進会議にて総合的・多角的な検討を進めていく**ことを想定。
- ・ 関心を示す民間事業者とは、行政との対話や事業提案を受け付ける**官民連携プラットフォーム**を組成し、そこで得られた民間意見をまちづくり推進会議にも報告・反映していくことを想定。

地下鉄7号線中間駅まちづくり推進会議

【地下鉄7号線中間駅まちづくり方針有識者会議 委員】

- ・ 交通／都市計画分野：
【座長】久保田尚（埼玉大学 名誉教授）、大沢昌玄（日本大学理工学部 土木工学科教授）
- ・ 社会学／マーケティング分野：
飛田満（目白大学 地域社会学科教授）、上田真弓（UMリサーチ&コンサルティング 合同会社 代表）
- ・ 環境・グリーンインフラ分野：
磐田朋子（芝浦工業大学副学長 環境システム学科教授）、福岡孝則（東京農業大学 造園科学科教授）

【新規委員】

- ・ 都市景観／都市デザイン分野：
福井恒明（法政大学 都市環境デザイン工学科教授）



※

まちコアWG

「選ばれるまち」にしていくための、コア機能・まちの顔となる都市機能施設等を検討

エリマネWG

「100年続くまち」にしていくための、産官学でのエリアマネジメント体制の検討

駅前WG

駅前整備計画の策定に向けた、駅まち空間の基盤整備・建築デザイン等を議論

【有識者】：交通/都市景観分野
（大沢先生・福井先生）

【関係者】JR TT、SR、交通事業者
（バス・タクシー・モビリティ等）

【さいたま市】：
都市局／建設局

みどりWG

将来のまちに残していくべき地域のみどりや、グリーンインフラを取り入れたみどりの骨格等を検討

【有識者】：環境・グリーンインフラ
分野（磐田先生・福岡先生）

【さいたま市】：
都市局／環境局

官民連携プラットフォーム



- ・ 本事業に関心を示す民間事業者と、継続的にヒアリング等対話を実施



- ・ 対象地域の開発コンセプトや、画地内デザイン等についての提案募集



- ・ 対象地域内で実現したいサービスやソリューションについての提案募集（実証実験の可能性等含む）

反映

【地権者/地域住民】WS・勉強会等を実施

※まちコアWG等は、駅前WGや官民連携PFによる検討の進捗に応じて立ち上げる想定

地下鉄7号線中間まちづくり方針改定版の報告

今後のスケジュール

※現段階の想定であり、変更になることがあります

